



こんにちは、まちかど図書館ぼたんです！朝晩はぐっと冷え込むようになってきましたが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。体調を崩しやすい時期ですので、どうぞお身体に気をつけてお過ごしください。今月のニュースレターでは、10月に開催した座談会の様子を中心に、図書館での秋の活動をお届けします。

Topic 01 第11回イベント、開催しました！

2025年10月11日に、第11回目となる座談会を開催しました。今回のテーマは「図書館とまちをつなぐ3年の歩み—開館1年目の成果と次の一步—」です。スピーカーは、築山ゼミの伊藤、千野、重田、西川の4名が務め、これまでの活動を振り返りながら、今後の展望について発表しました。

当日は、本棚オーナーの山下さん、山口さん、攬上さん、坂田さん、青山さんをはじめ、利用者の堀内さん、金子さん（転勤で長野市に来られ、文芸誌がお好きとのこと）、一般参加の山口さん（坂田さんのご紹介で、旦那さまが裁松院の住職）、市内高校生の山岸さん、さらに築山教授とゼミ生の妻も参加し、にぎやかな会となりました。

開館から3年が経ち、まちかど図書館ぼたんが地域にどのように根づき、これからどんな形でまちと関わっていけるのかを考える、あたたかく前向きな時間となりました。

【発表内容紹介】

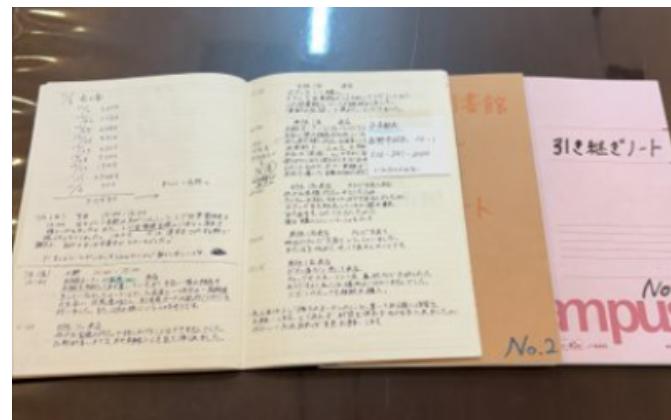
発表は4つのテーマに分けて行われました。内容は、①「引き継ぎノート」からみる来館者の特徴、②「来館ノート」からみる〈まちかど図書館ぼたん〉の意味、③これからの展望と現状・課題、④持続可能にするためのアイデアです。

【①「引き継ぎノート」からみる来館者の特徴】

まず、歴代の学生が残してきた「引き継ぎノート」（全3冊）をもとに、来館者の特徴を分析しました。右の写真はその「引き継ぎノート」です。ノートをたどると、まちかど図書館ぼたんの歩みが3つの段階で見えてきました。

第1冊目では、新聞やSNS、口コミなどで「知ってもらう」ことを通じて、注目や関心が集まっていた時期。第2冊目では、「借りる・返す」といった日常利用が定着し、行政や大学とのつながりも生まれていました。そして第3冊目では、海外の方や高校生、専門職の方など、地域を超えた人々の関心が広がっていました。

こうしてノートを振り返ると、「知ってもらう」「利用が根づく」「広がりと注目」という、まちかど図書館ぼたんの“成長の段階”が浮かび上がってきたことがわかりました。

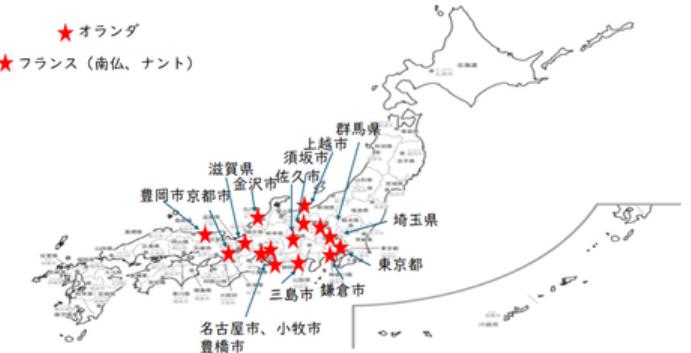


【②「来館ノート」からみる「まちかど図書館ぼたん」の意味】

次に、「来館ノート」に寄せられた言葉を分析しました。そこからは、本を通じたゆるやかな人のつながり、利用者にとって安心できる場所、そして地域の歴史と未来をつなぐ場としての「ぼたん」の姿が見えてきました。

また、来館ノートをもとに、まちかど図書館ぼたんに訪れた方がどこから来ているのかをまとめてみました。右の地図（資料）にあるように、佐久市をはじめ、埼玉県や群馬県、滋賀県など県外からの来館も多く見られました。さらに、オランダやフランスといった海外から訪れてくださった方もいて、うれしい発見でした。まちかど図書館ぼたんを前から知って来てくださった方もいれば、たまたま通りかかって立ち寄ってくださった方もいました。これからも、たくさんの方に気軽に立ち寄っていただけたらうれしいです。

どこから来られているのか（来館者ノートより、長野市外の方をとらえる）



【③ これからの展望と現状・課題】

今後の展望として、「本を通して人と人が出会う“まちの交差点”であり続けたい」という思いを共有しました。強みとしては、本棚オーナーが26名に到達し、学生・オーナー・利用者の小さなつながりが生まれていることが挙げられました。

一方で、オーナー数が目標に届いていないこと、若者の利用が少ないと、学生の予定変更により休館がある点が課題として示されました。

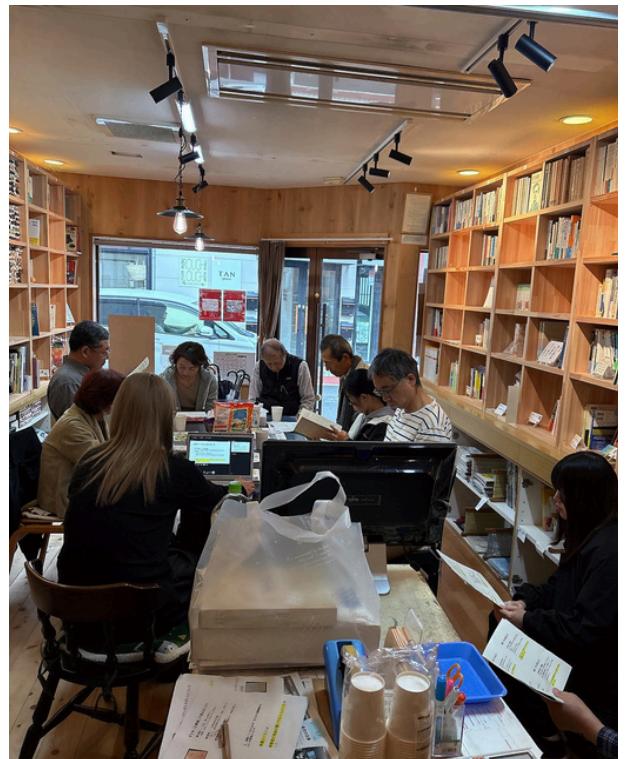
【④ 持続可能にするためのアイデア】

「まちかど図書館ぼたん」を、これからも長く地域に開かれた場として続けていくために、私たちは次のような取り組みを考えています。

まず、本の種類をもっと豊富にするために、本棚オーナー様を増やしていきたいと思います。学生が運営しているという特徴を生かし、「今までになかった人のつながりが生まれる場」として、魅力を感じてもらえるよう工夫していきます。また、現在のオーナー様との継続的な関係づくりも大切にしていきます。担当の学生が「ぼたん」の様子をお伝えしたり、オーナー様の本がどのように読まれているかをメールなどで共有したりすることで、活動と一緒に見守っていただける関係を築きます。地域の方々にもっと「ぼたん」を知ってもらうために、周辺の掃除を丁寧に行ったり、「場所」として貸し出したりすることで、地域の方々に気づいてもらえる仕組みをつくっていきます。

あわせて、北石堂区の皆さんとも関わりを深め、地域の“今”を学びながら、委員会や行事などにも積極的に参加していきたいと考えています。

また、子どもや子育て世代にも気軽に立ち寄ってもらえるよう、放課後に過ごせるスペースづくりも検討しています。先月の1周年イベントで、みんとしょアンバサダーの風間一毅さん



から紹介された「INBase」(右の資料)のように、子どもたちの居場所にもなる「ぼたん」を目指します。

さらに、若い世代とつながる工夫として、SNSでの本の紹介や、学校帰りにふらっと立ち寄れるような空間づくりにも挑戦していきます。そのためにも、居心地のよい環境をさらに整えていくことが大切です。カフェ機能を活かしたり、2階スペースを有効に使ったり、音楽の流れる空間にするなど、より心地よく過ごせる「ぼたん」をつくっていきたいと考えています。

そして何より、日々の小さな実践を大切にしていきます。窓やドアを磨いたり、丁寧に掃除を行ったりしながら、美しく心地よい空間を保ち続けます。

活動を持続させるためには、資金の確保も欠かせません。大学の理事長裁量経費や各種助成金、「ろくれい奨励賞」などに積極的に挑戦し、ファンドレイジングにも力を入れていきます。

また、次の世代へ活動をつないでいくために、築山ゼミの現2年生に「まちかど図書館ぼたん」の意義を早い段階で共有し、活動への参加を促していく予定です。

こうして、地域と学生がともに育っていく図書館として、少しずつ「ぼたん」を育んでいきます。

【オーナ様や参加者の皆様からの意見・質問】

座談会のなかでは、オーナー様や参加者の皆さまからたくさんのご意見やご質問をいただきました。どれも、これからのが「まちかど図書館ぼたん」を考えていく上で大切なヒントになりました。

まず、「図書館とまちづくり長野、中心市街地活性化協議会との関係は?」というご質問をいただきました。「ぼたん」は、地域のにぎわいづくりや人のつながりを生む場所として、まちづくりの一端を担っていることを改めて意識する機会となりました。

放課後スペースINBase

- ・学校や世代の枠組みを超えた人たちと中高生・若者が出会い、自分のやりたいことを実現していくための「みんなの居場所」
- ・中高生・若者が自由に集まり交流!大人が常駐しているため進路や勉強の相談も
- ・地域で活躍する大人を招いてのワークショップや体験など様々な学習機会がある
- ・イベントやものづくりなど「やってみたい」に挑戦できる



NPO法人f.salonホームページより(https://fsalon.com/project_3/)

⑥若者ともっとつながる

- ・SNSでの本の紹介動画(1周年記念イベントに出たアイデア)
→誰が動画を作るのか。
- ・学校帰りにふらっと立ち寄れる空間を作る カフェ
→学校帰りには閉館している現状をどうするか。
- ・本好きの高校生や学生に図書館の店番体験をしてもらう?
→誰が体験をアテンドするのか。



⑦今より居心地のよい空間にするために

- ①カフェ機能を持つ。コーヒー、紅茶、簡単なお菓子など
→図書館奥の部屋のキッチンを稼働する。

- ②ゆっくり本が読めるスペースを作る
→二階の部屋を稼働できるようにする。

- ③音楽のある空間を考える。
→軽やかな音楽を選曲し、BGMとする。



「アトリエ森野＆森の図書館」
(栃木県宇都宮市) のカフェ



また、「世代によって“地域”的感覚が違うのでは」というご意見もありました。たしかに、地域との関わり方は年齢や立場によってさまざまです。若い世代にとっては“地域”が少し遠く感じられる一方で、長く暮らす方々にとっては生活そのものと結びついた身近な存在です。その違いを理解し、世代を超えて関わる場として「ぼたん」がどのように機能できるかを考えるきっかけとなりました。多様な世代が自然に交わる場づくりを、これから意識していきたいと感じました。

「本を借りに来たとき、閉まっていたら残念だった」という声もありました。この点は運営側の課題として受け止め、利用時間やアクセスの工夫など、より使いやすい仕組みを検討していきます。

また、「地域は意外と閉鎖的で、「まちかど図書館ぼたん」に入っていくのにハードルを感じる」という率直な意見も寄せられました。地域の行事に「まちかど図書館ぼたん」として参加し、顔を見せる機会を増やすことで、少しずつ信頼関係を築いていけたらと思います。

「お茶を飲みながら話せると、もっと自由にアイデアが出そう」という声や、「おやき屋さんからふらっと立ち寄れるような導線があるといい」というアイデアもいただきました。たしかに、“ふらっと立ち寄れる場”というのは、「ぼたん」の理想の姿にとても近いと感じます。

さらに、カフェを設ける場合の課題について、オーナー様の山口さんからも貴重なお話を伺いました。カフェ機能を持つには、責任者の配置や清掃チェックなど、細かな管理体制が必要になること。実際に運営されている方のお話から、多くの学びを得ることができました。皆さまからのご意見やご感想を糧に、これからも「まちかど図書館ぼたん」をより開かれた、心地よい場所にしていきたいと思います。

【嬉しいできごと】

今回の座談会では、オーナーの山口様から手作りのパンを差し入れていただきました。

参加者ちょうど全員分という心のこもった贈り物で、ふわふわの生地とやさしい味にみんな笑顔に。会のあたたかい雰囲気が、さらに和やかになりました。山口様、本当にありがとうございました！



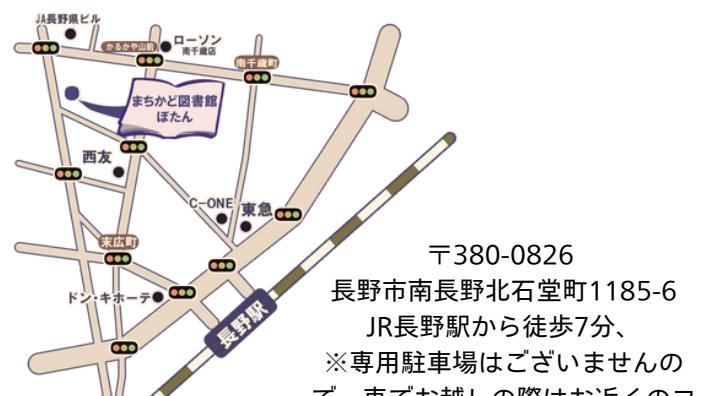
Topic 02 開館時間について



開館時間は10時から18時ですが、ゼミ生と教員が店番をしている関係で、その時間内で、可能な時間に開館しております。詳細はホームページまたはInstagramで確認をお願いいたします。

URL:<https://machinakabotan.com/www.machinakabotan.com/>

Topic 03 アクセス



〒380-0826
長野市南長野北石堂町1185-6
JR長野駅から徒歩7分
※専用駐車場はございませんので、車でお越しの際はお近くのコインパーキングへのご駐車をお願いいたします。



2025年11月11日発行
編集：長野県立大学 グローバルマネジメント学部 築山ゼミナール
住所：〒380-8525 長野市三輪8-49-7 B309研究室
TEL：026-217-2241（代表） fax：026-235-0026
E-mail：tsukiyama.hideo@u-nagano.ac.jp
主催：中心市街地活性化協議会